

脱炭素社会の実現に向けた福岡市の目標

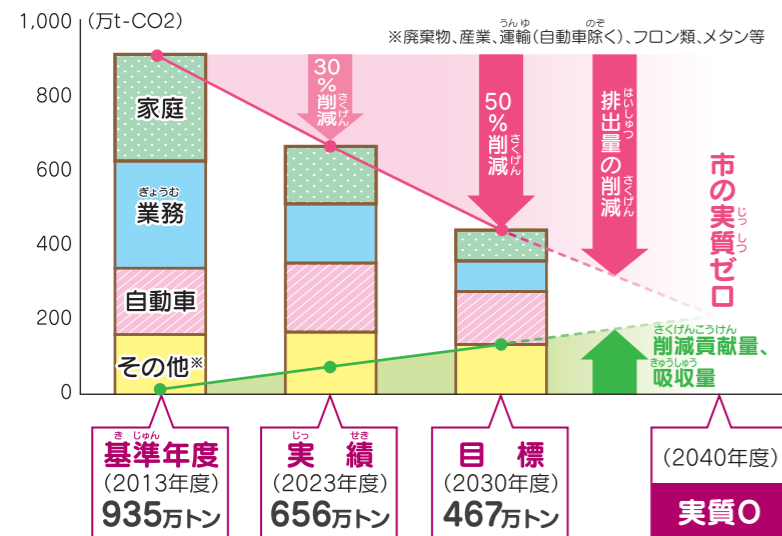
(日本の目標)

日本では、2020年に世界に向けて、「脱炭素社会の実現に向け、2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにする」と表明(カーボンニュートラル宣言)し、2030年度には温室効果ガスを2013年度と比べ**46%削減**する目標を決めました。

(福岡市の目標)

福岡市は、世界や日本がめざすカーボンニュートラルに積極的に取り組むため、「**2040年度 温室効果ガス排出量実質ゼロ**に向けたチャレンジ」を表明し、**2030年度**の温室効果ガス削減目標を**国の46%より高い50%**とし、さまざまな取り組みを進めています。

(福岡市の目標)



排出量とは
省エネや再生可能エネルギーを活用しても発生してしまう温室効果ガスの量

削減貢献量、吸収量とは
エシカル消費や海外での廃棄物埋立技術「福岡方式」などによって、市域外で削減できたと推定される温室効果ガスの量、森林や海洋などによる吸収量

福岡市の取り組み

環境にやさしい地下鉄

福岡市地下鉄は、全路線の使用電力を100%再生可能エネルギー由来の電力に切り替えて運行しています。



福岡市営地下鉄

年間でみずほpaypayドーム約11杯分の二酸化炭素を削減

市の施設の省エネ化

福岡市が管理する施設では、新築時や改修時に省エネ効果の高い素材や設備を導入して建物全体の省エネ化を進めています。



福岡市民ホール

年間で25mプール約1,300杯分の二酸化炭素を削減

プラスチック分別収集 令和9年2月～開始

福岡市では、プラスチックを燃えるごみとして収集していますが、令和9年2月から、プラスチック分別収集を開始します。収集したプラスチックは、新たなプラスチック原料へとリサイクルを行います。



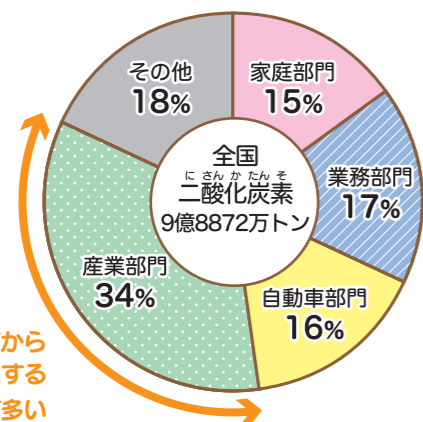
週に1回夜に回収

福岡市における二酸化炭素排出量の特徴

日本全体の二酸化炭素排出量は、工場など産業部門からの排出が最も多いですが、福岡市は、商業やサービス業が多いため、家やビル、お店、自動車から発生する二酸化炭素で市内の

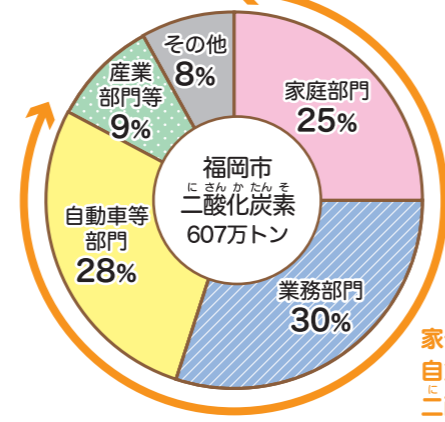
約83%を占めるという特徴があり、脱炭素社会実現に向けては、市民一人ひとりの行動がとても重要です。

日本の二酸化炭素排出量(2023年度)



工場などから発生する二酸化炭素が多い

福岡市の二酸化炭素排出量(2023年度)



家やビル、お店、自動車から発生する二酸化炭素が多い

出典：国立環境研究所 温室効果ガスインベントリオフィスのデータ
「日本の温室効果ガス排出量データ(1990～2023年度) 確報値」を元に作成

※四捨五入の関係のため、割合の合計が100%を超える

【ねらい】福岡市の目標について学び、その目標を達成するための市の取り組みを理解できるようにします。

ペロブスカイト太陽電池 福岡市でスタート!

ペロブスカイト太陽電池とは、軽くて曲げることができる太陽電池です。これまでの太陽電池が設置できない屋根や建物の壁面など、色々な建物へ設置できる可能性があります。この新しい技術を体育館屋根などにいち早く設置し、福岡市から全国へ広めていきます。



ペロブスカイト太陽電池



香椎浜小学校体育館